板橋区かわまちづくりにおける整備・取組の検討状況について

板橋区かわまちづくり協議会
資　　料　　1
令和８年10月１日～７日
かわまちづくり担当部
かわまちづくり計画担当課

1　これまでの主な実績

（１）新河岸陸上競技場と荒川堤防をつなぐ「連絡通路」の整備等

板橋区かわまちづくりの第１期事業として着手した新河岸陸上競技場と荒川堤防をつなぐ連絡通路の整備が令和７年度に完了し、新河岸陸上競技場の緊急一時退避場所としての活用を開始した。



連絡通路「ITTA RIVER PARK BRIDGE」

（２）荒川戸田橋野球場渋滞緩和道路等整備

スポーツ施設利用者の利便性向上を図るため、新河岸水再生センター前駐車場近辺の渋滞緩和に向けた整備を行った。

（３）「板橋区かわまちづくり基本計画」の策定

板橋区かわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」（以下「基本計画」）を策定した。

2　公民連携導入に向けた取組方針の検討状況

民間事業者の参入や板橋らしいにぎわい創出につながる整備及び取組を実施するために、基本計画にて示した取組方針とその検討状況は次とおりである。

取組方針①　にぎわい拠点づくり

○にぎわいの拠点となる「水辺のにぎわい・アウトドアゾーン」の親水広場周辺の「コアエリア」について、生物生態園や中規模自然地等の現況を踏まえた整備を進めていく。

⇒**「かわまちづくりコアエリア周辺環境調査及び基本設計委託」にて、河川に関する情報収集、測量、諸施設の検討及び設置など、コアエリア整備に向けて検討している。（次頁参照）**

取組方針②　にぎわい機能の拡充

○利用者ニーズや事業運営の課題等の整理、かわまちづくりの機運醸成を図るため、トライアル・サウンディングや新たなイベント等実施に取り組んでいく。

⇒**第１弾トライアル・サウンディング（右欄参照）を実施し、ニーズや課題を把握するとともに、結果等を踏まえ、公民連携に向けた課題整理や新たなイベント等実施に向けて検討している。**

取組方針③　関係機関との連携

○プロムナード・親水護岸の整備に関する荒川下流河川事務所との協議や、関連する指定管理者の現状等を踏まえた運営体制に向けて連携を図る。

⇒**プロムナード・親水護岸の整備着手に向けた協議を実施し、将来を見据え効果的な運営体制について検討を進めている。**

3　トライアル・サウンディングの実施状況

（１）募集概要

【目的】
荒川の水辺空間の魅力を最大限に引き出すため、事業者等の創意工夫やノウハウを活用し、実装段階での課題や利用者ニーズ、持続可能な事業運営の可能性を事前に検証すること。

①募集期間：令和８年１月13日（火）～令和９年１月28日（木）※
②実施期間：令和８年４月１日（水）～令和９年２月28日（日）
③実施場所：草地広場、荒川戸田橋陸上競技場、戸田橋下駐車場、他
④対　　象：本格運営時に主体的に運営を担うことを検討している事業者等
※募集要項改定後（募集要件の事業期間を１か月間から１日以上に見直し、準備期間を短縮したため事業期間延伸）

（２）第１弾トライアル・サウンディング「いたばし荒川ＪＭフェスティバル」

【実施内容】

実施日		天気	特設プログラム※1	来場者数※2
１週目	6/6（土）	晴	気球体験、大凧、ゴーカート	1,281 名
	6/7（日）	雨	常設プログラムのみ実施	103 名
２週目	6/13（土）	晴	カヤック・SUP 体験、ドローン体験、新河岸小学校鼓笛隊	448 名
	6/14（日）	曇	ラグビー体験、ドローン体験、菓子まき	335 名

※1　特設プログラムの他、おもしろ自転車、キッチンカー出店、貸出遊びは、常設プログラムとして全日実施。
※2　各プログラムの利用者数（集計対象外のプログラムもあり）と 11 時、13 時、15 時時点に会場にいた人数の合計。


気球体験（6/6）


カヤック・SUP 体験（6/13）



キッチンカー出店（常設）

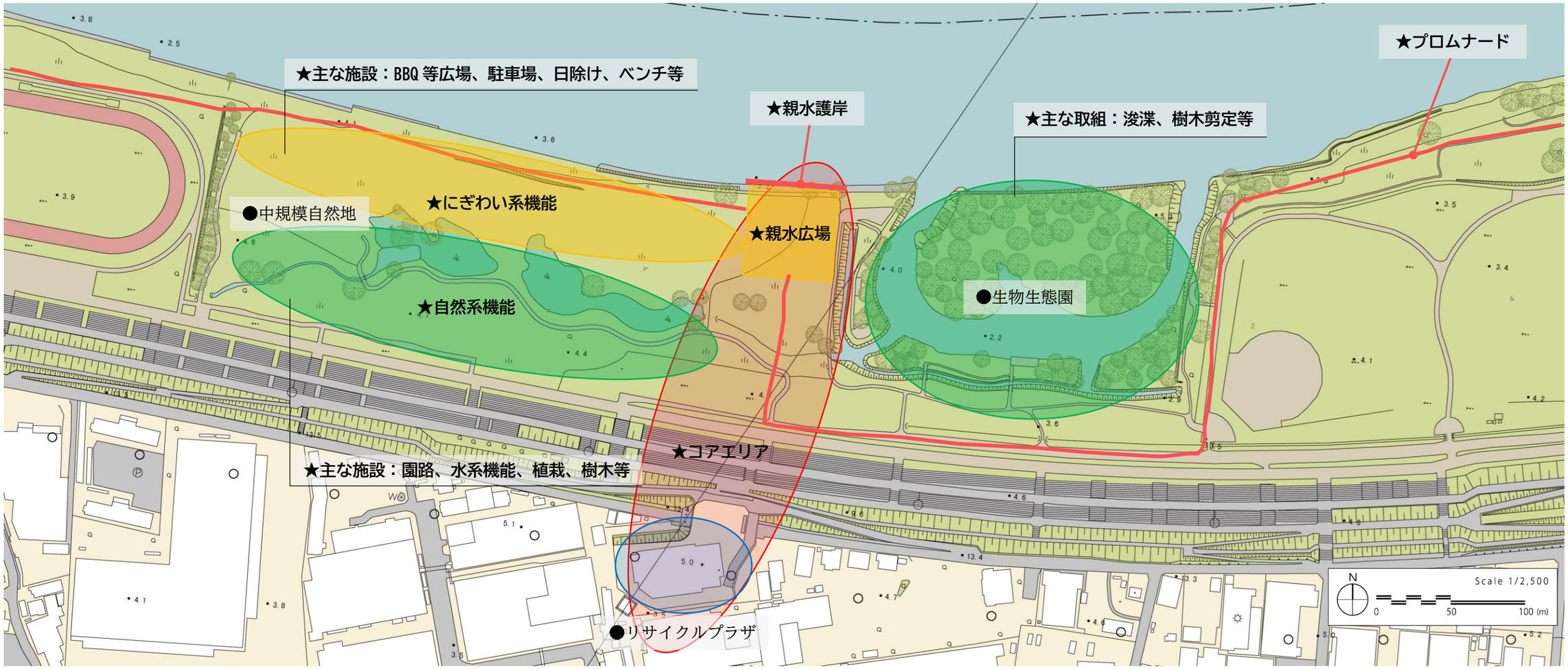
【株式会社ＪＭの主な意見】

○気球体験は最も高い集客効果を発揮（過去最大の売上を記録）し、カヤック・SUP 体験の予約枠は全て満員となり、集客の核となるプログラムとして有効性が確認できた。
○キッチンカーは、大きなプログラムの実施がない場合の売上確保が難しいとの意見があった。
○各プログラムの料金設定も重要であるが、河川敷が持つ市場性を十分に発揮するためには、大規模なイベントを実施することが効果的であると考えられる。
○周辺道路からイベント会場の様子が見えにくいため、通行者への認知が得られにくかった。
○会場までのアクセス案内が十分ではなかったため、案内看板や誘導表示を充実させるなど、より分かりやすい案内方法を検討する必要がある。
○利用環境の向上を図るため、樹木・雑草の管理及びトイレ設備の改善が望まれる。
○サイクリストを取り込むためのサイクルラックの設置も効果的である。
○民間整備は事業者側のリスク負担があるため、基盤整備やアクセス向上に資する取組を行政が負担したうえで、指定管理者制度による参画が望ましい。

3　コアエリアのゾーニング案と施設配置イメージについて

〇基本設計では、コアエリアとその周辺の生物生態園及び中規模自然地（以下「コアエリア等」）の整備に向けて、現況調査し、ゾーニングや園内の施設配置について検討を進めている。

〇コアエリア等のゾーニング案と施設配置については、現在以下のとおりイメージしている。（●…既存施設、★…新規施設・機能等）



【コアエリア等の全体コンセプト】
～かわと公園、まちの境界がない開かれた空間づくり～

リサイクルプラザからの動線を意識し、動線の先にぎわい拠点となる親水広場・親水護岸を配置することで、まちから水辺へシームレスにつながる空間をつくる。

【にぎわい系コンセプト】
～多様なニーズに応えるゾーニングとにぎわいづくり～

ニーズの高いＢＢＱやデイキャンプができる広場と隣接した駐車場を川側に配置するとともに、川や生物生態園など荒川の河川空間を散策できるゾーン等をわけながら、誰もが楽しめる場所をつくる。

【自然系コンセプト】
～水辺の自然を五感で楽しむ公園づくり～

みどりと身近に関われる機会を増やすため、誰もが自然を体感できるような拠点や、プロムナード、園路によってつながれた場所をつくる。

4　今後のスケジュール

R9.2　（仮称）整備方針　報告 → R9 年度　コアエリア詳細設計・プロムナード等工事着手 → R10 年度以降　コアエリア整備着手・プロムナード等工事